

仙台塩釜港 港湾計画一輕易な変更一 概要版



仙台塩釜港(仙台港区)の概要

- ・仙台塩釜港(仙台港区)は、東北地方の産業・経済を支える国際拠点港湾であり、コンテナや完成自動車などユニット貨物の重要な海上物流拠点となっている。
- ・仙台塩釜港(仙台港区)の主な取り扱い貨物は、完成自動車、原油、紙・パルプである。
- ・仙台塩釜港(仙台港区)の平成24年の取扱貨物量は約3,600万トンであり、震災前の平成22年(約3,300万トン)を超えて回復している。
- ・コンテナ取扱個数は約17.3万TEU※であり、ピークであった平成22年(約21.6万TEU)の約8割まで回復している。 ※TEUはコンテナの個数を示す単位で、20フィートコンテナ1個を1TEUとして換算したもの。40フィートコンテナ1個は2TEUとなる。

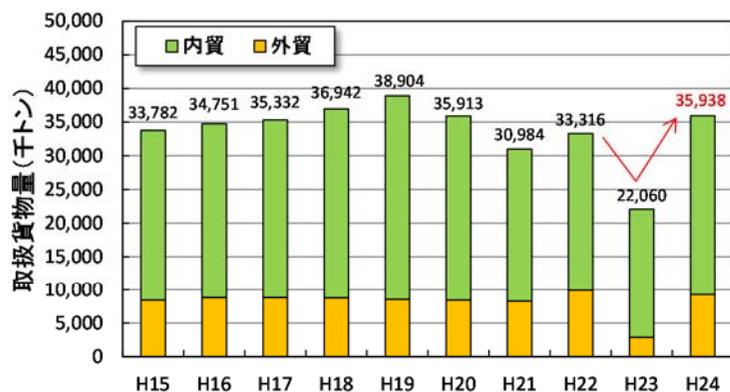


図.仙台港区の取扱貨物量の年次推移

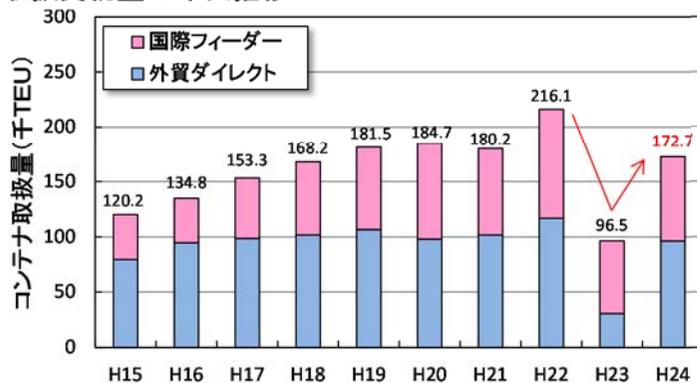


図.仙台港区のコンテナ取扱量の年次推移

中野地区雷神埠頭
(完成自動車)



向洋地区高砂埠頭
(コンテナ)

今回の計画変更内容

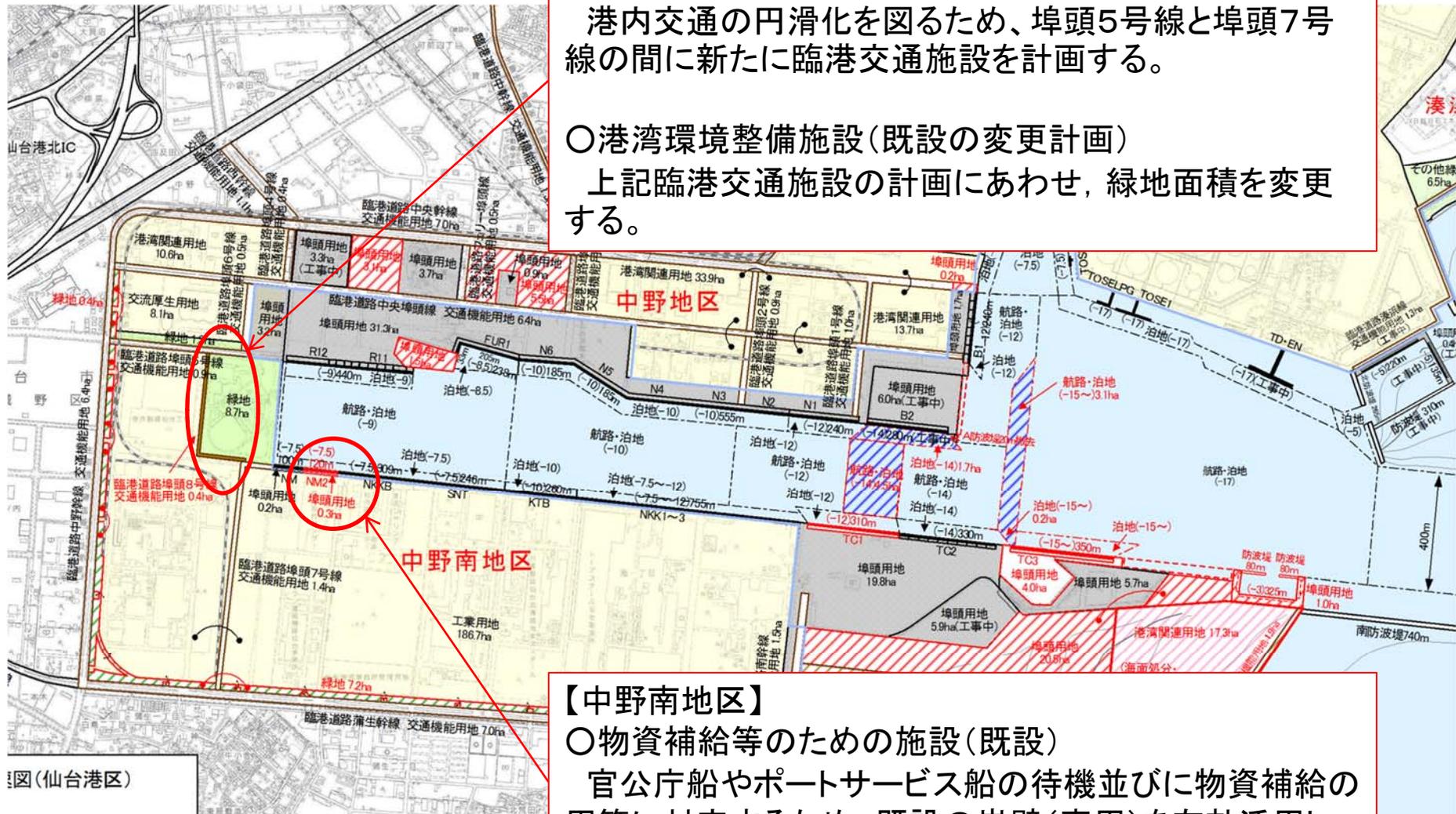
【中野地区】

○臨港交通施設(新規計画)

港内交通の円滑化を図るため、埠頭5号線と埠頭7号線の間新たに臨港交通施設を計画する。

○港湾環境整備施設(既設の変更計画)

上記臨港交通施設の計画にあわせ、緑地面積を変更する。



【中野南地区】

○物資補給等のための施設(既設)

官公庁船やポートサービス船の待機並びに物資補給の用等に対応するため、既設の岸壁(専用)を有効活用し、物資補給等のための施設とする。

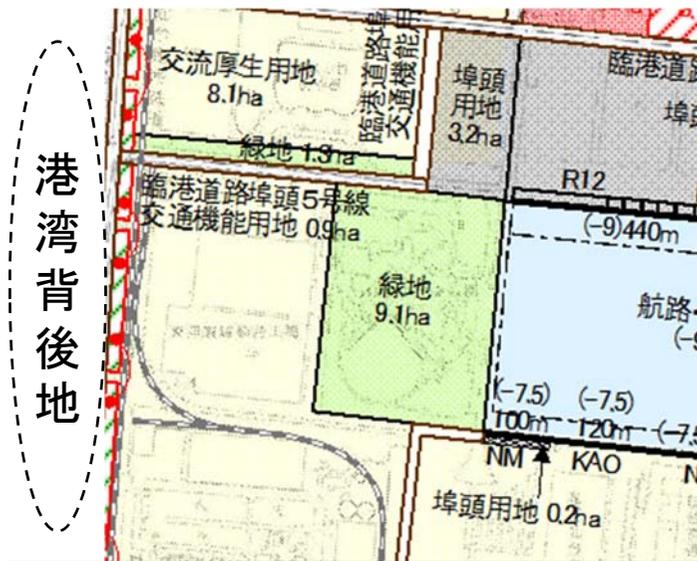
計画変更の概要(1)

■背景

・港湾背後地への大規模商業施設の立地等に伴い、慢性的な渋滞が発生する可能性があり、港湾物流への影響が懸念されている。

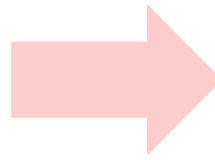
■対応

・中野地区と中野南地区を連絡する臨港道路を新たに計画し、交通状況に応じた通行ルートを選択肢を増やすことで、港内交通の円滑化を図る。



【既定計画】

- 港湾環境整備施設計画
 - ・緑地 9.1ヘクタール
- 土地利用計画
 - ・緑地 9.1ヘクタール



【今回計画】

- 臨港交通施設計画
 - ・臨港道路埠頭8号線(新規) 2車線
- 港湾環境整備施設計画
 - ・緑地 8.7ヘクタール
- 土地利用計画
 - ・緑地 8.7ヘクタール
 - ・交通機能用地 0.4ヘクタール

計画変更の概要(2)

臨港道路埠頭8号線の必要性



●中央埠頭線渋滞状況
H26.1.31(金) 夢メッセみやぎ
とうほく蘭展 & パラとガーデニングフェスタ2014



●中野幹線渋滞状況
H26.2.22(土) 夢メッセみやぎ
第9回仙台モーターショー2014



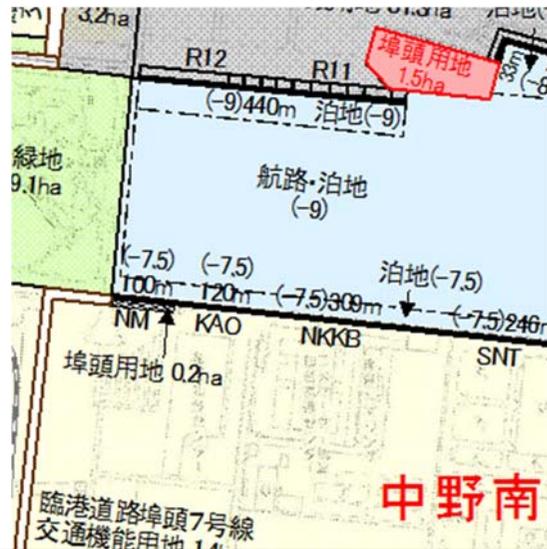
計画変更の概要(3)

■背景

・官公庁船やポートサービス船※1が最大数で運航している時に、一時待機するための係留場所が不足している。

■対応

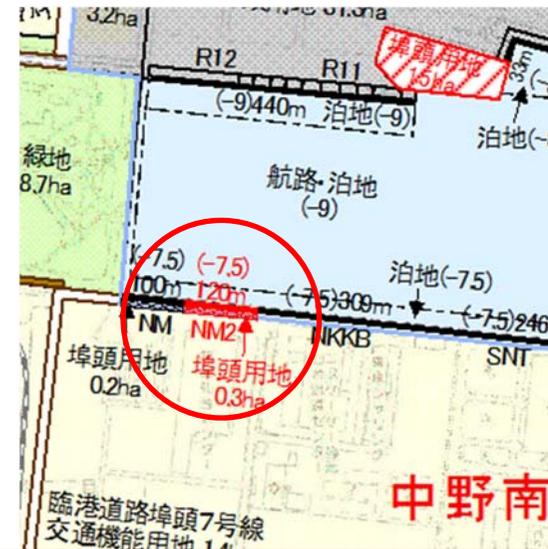
・遊休化している既設の専用岸壁を有効活用し、官公庁船やポートサービス船の待機や物資補給の用等に供するための施設として位置づける。



【既定計画】

○専用埠頭計画

・水深7.5m岸壁 1バース 120m



【今回計画】

○専用埠頭計画

・水深7.5m岸壁 1バース 120m(廃止)

○物資補給等のための施設※2

・水深7.5m岸壁 1バース 120m

○土地利用計画

・埠頭用地 0.3ヘクタール

※1) ポートサービス船

タグボートや給水船など港内において各種船舶の活動を支援する小型船舶の総称

※2) 物資補給等のための施設

専ら作業船、官公庁船などの係留や燃料、水、食料、日用品などの船舶運航上必要となる物資を補給する場所として利用される施設

